

## 濱一衛の北平留学と上演史研究の成立

中里見, 敬  
九州大学言語文化研究院 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/1526331>

---

出版情報 : 日本中国学会第67回大会, 2015-10-11  
バージョン :  
権利関係 : スライド27, 31, 33枚目 : 九州大学附属図書館

日本中国学会第67回大会  
2015年10月11日 於国学院大学

# 濱一衛の北平留学と上演史研究の成立

中里見敬（九州大学）

資料正誤表 4頁【資料10】下から4行目  
(誤)「王搖卿系の」 → (正)「王瑤卿系の」

# 滨一卫（1909-1984）简历

1909年出生于日本大阪

✓1923年青木正儿从京都到东北大学上任

1930年毕业于浪速高等学校，与周丰一相识

1933年毕业于京都帝国大学，专攻中国文学

1934年6月至1936年6月留学北平，  
寄居于周作人家

✓1938年青木正儿从东北大学回到京都大学上任

1938年任教于松山高等商业学校

1949年任教于九州大学教养部

1956年接待中国访日京剧代表团并与欧阳予倩副团长会谈

1973年退休

1984年去世



# 以庚子赔款实行的 日本人访华留学制度

1930年11月外務省文化事業部は、

「将来東方文化研究上の中心となり且つ日支両国文化提携上の楔子となる人物を養成する為」

在支本邦人留学生に対し、第一種から第三種までの補給制度を発足させた。

- 第一種は小学校卒業生
- 第二種は中学校卒業生(旧制)を対象としたのに対して、
- 第三種は「日本の大学若しくは専門学校卒業生又は之と同等以上の学力ある者で、中国の大学、大学院、専門学校若しくは其の他に於て修学研究する者」

# アジア歴史資料センター HTTP://WWW.JACAR.GO.JP/

国立公文書館  
**アジア歴史資料センター**  
Japan Center for Asian Historical Records National Archives of Japan

文字サイズ変更: 標準 やや大きめ 大きめ

印刷

資料の閲覧 センターの紹介 ご挨拶 資料について 利用規則 論文等への引用 よくある質問 ご意見・ご要望 モニター募集

アジア歴史資料センター・大英図書館共同インターネット特別展  
**描かれた日清戦争**  
～錦絵・年画と公文書～  
インターネット特別展

- ▶ 震災と復興
- ▶ 日露戦争特別展

[一覧を見る](#)

### 資料の閲覧

検索

[詳細検索へ](#)

効率的な資料閲覧には、DjVuプラグインのインストールがおすすめです。  
※JPEG形式での閲覧も可能です。

[ご利用方法](#)

[検索ガイド](#)

[DjVuプラグインダウンロード](#)

[資料の整備状況](#)

[元号西暦対照表](#)

#### アジ歴トピックス

- ▶ 戦争・事件
- ▶ 人名
- ▶ 制度・用語

様々な歴史トピックに関する資料を簡単にご紹介します。初めての方、手軽に資料を見てみたい方に。

#### 社会科学習お役立ち資料

- ▶ 社会科授業用資料リスト

社会科授業で使っていただける歴史資料のリストです。先生方、中学生・高校生の皆さんに。

アジ歴ってどんなところ？  
アジ歴紹介 **MOVIE**  
[▶ クリック!](#)

#### お知らせ

[一覧を見る](#)

2015年06月03日  
[システム停止のお知らせ](#) **NEW**

2015年05月19日  
[ChromeブラウザでのDjVuプラグイン対応について](#) **NEW**

2015年05月08日  
[...](#)

#### 最新情報

[一覧を見る](#)

2015年04月24日  
[資料関連](#) [外務省外交史料館所蔵資料](#)  
「[外務省記録](#)>[A門 政治](#)、[外交](#)>[1類 帝国外交](#)>[1項 対支那国](#)>[0目](#)」の一部資料の修正について

2015年04月22日  
[...](#)

#### おすすめ情報

[アジ歴ニュースレター](#)

アジ歴から皆さんへのメッセージ、活動報告、資料情報などを配信しています。

▶ [登録はこちらよりご連絡ください](#)

[バックナンバーをチェック](#)

# 从选考到采用的过程：選考から決定まで

昭和9(1934)年2月23日

京都帝国大学総長より濱一衛の推薦書提出

研究課題は「現代支那ノ社会生活ヨリ見タル国民性ニ就テ」

4月30日に面接

5月4日に内定通知

5月9日決裁の文書で正式に採用

# 抵达北平

「六月十一日神戸発、同月十五日北平二到着致候」  
（「到着届」）

「中華民國北平東城西堂子胡同中華公寓」  
（「到着届」）

# 一年后，滨一卫向文化事业部提交的 《研究过程报告》提及留学细节

昭和九年

六月十五日 北平到着西堂子胡同中華公寓止宿

八月 一日 同学会語学校速成班第一学年入学

八月十五日 試験の結果正科第二学年に編入さる

九月 北京大学教授周作人先生の推薦にて同大学に聴講す

十一月卅日 同学会語学校退学

十二月一日 西城新街口八道湾十一号周作人先生宅に転居



# 回国及《最终报告书》

6月10日に塘沽から大阪商船の長城丸に乗船し、  
1936年6月13日帰国。

最終報告書「現代支那人ノ生活ヨリ觀タル国民性」

→ 所在不明

# 周丰一考进浪速高等学校到退学的经过

北京の孔徳学校で小学6年，中学4年の計10年間の教育を受ける

1929年夏に東京で他の中国人留学生とともに予備学校に通い受験勉強を始める

同年12月，妹・若子死去の悲報に接して帰国

1930年夏再来日する。浪速高等学校に入学していた先輩2人の勧めをうけて1931年に同校を受験し合格する

→ 1930年秋、濱一衛と交遊開始

1931年9月18日，満洲事変勃発により「浪高在学の中華留学生四人の内，三人共一緒に帰国」

# 目加田誠『北平日記』(稿本、大野城市所蔵)

1934年6月18日

小川君の友人、浜といふ人(大阪の人)来り。山本君、周豊一(周作人の息)と共に院子にて食事す。

# 1934年12月1日濱一卫搬迁到 西城八道湾的周作人家

下午濱君来寄宿豊一之西屋。

『周作人日記』1934年12月1日

官費といっても決してほしいままに使える金ではなかった。豊かな生活を送ることが允されなかったのは勿論のことである。間借や喰代で大変だろうと思って、浜兄に家に泊ってくれ、食事も両親などと一緒にしてくれと話したので、悦んで私の家へ来てもらったわけだ。

周豊一「憶往二三事」

# 目加田誠『北平日記』

## 旁听北大：由不成功到成功的过程(1)

九月十日 午後、北京大学、中法大学、輔仁大学に九月以後の課目を調べにゆき、(後略)

九月十一日 午後、中国大学、師大文学院にゆく。中国大学は旁聴生を許可し、種々便宜也。各校の科目を調べ出し旁聴のつもり。北大は黄節、馬廉、魏建功など。中国大学は孫人和、吳承仕など。文化事業にゆく。

九月十七日 午前中、小川君と北京大学旁聴の件につき公使館にゆきしも駄目。文化事業に至り、橋川氏にたのむ。

九月二十三日(日)中秋節 午後、文化事業にゆく。橋川氏に先日頼みをききし孫人和、吳承仕、馬廉氏の講義旁聴の件、孫、吳両氏は快く引き受け、且つ中国大学なる故問題なきしも、馬廉氏はやや難題なり。

# 目加田誠『北平日記』

## 旁听北大：由不成功到成功的过程(2)

九月二十六日 夜、周豊一君来る。

九月二十八日 小川、浜、桂諸君と一緒に北大にゆく。周豊一君わざわざ迎へに家まで来てくれる。聴講の手続終れり。余は黄節、馬廉氏を聴く。

# 小川環樹「留学の追憶」

(『小川環樹著作集』第5巻) 430頁

北大の講義は、それもなかなか聴かしてくれなかったんだけどね、最後に周作人に頼んで紹介してもらって、それでやっと聴講できるようになったんですけれどね。そのころは第一その、「満洲事変」よりあとでしょ、だいぶもう両国の関係が悪くなりつつあるときでもあったし、聴講生でも試験するとかなんとか言うからね。試験を受けてもよかったんですけど。あとでね、ぼく北京大学の入学試験の問題を見たら、あんな易しい問題だったらぼくもできると思ったけど。そのときは難しい試験をしやはるんだろうと思ったから恐れをなしてね。

# 目加田誠『北平日記』

## 旁听北大：由不成功到成功的过程(3)

十月二日 周豊一君来り、北大旁聴料領収書を持参。

十月二十九日 夜、北大旁聴について骨折りをたのみし  
周君を招き、小川、浜君達とロシアアパートにて食事。其  
後、平安に活動を見る。



在中華民國日本公使館一等書記官若杉要より  
外務大臣廣田弘毅あて「第三種補給生ノ北京大学入学  
ニ関スル件」(機密第638号、昭和9年10月5日)  
JACAR: B05015631400

満洲事変以来、第三種補給生ニシテ当地支那大学ニ入学セル  
モノハ、武田熙ガ北京大学文学院ニ聴講生トシテ入学セルニ  
過ギザリシ処、本年九月ノ新学期ニ於テハ周作人、錢稻孫両  
教授ノ尽力ニ依リ無試験ニテ左記五名聴講生トシテ入学ヲ許  
可セラレタリ。右ノ内、法学院ニ外国人ノ傍聴ヲ許可セルハ今  
回ガ初メテナリトノコトナリ。

# 同前档案

西由五郎(第三種B)	北京大学法学院	錢教授紹介
樫山 弘(第三種B)	北京大学法学院	同教授紹介
桂 太郎(第三種A)	同 文学院	周教授紹介
濱 一衛(第三種A)	同	同
木村重充(第三種A)	同	錢教授紹介

発表者注： 周教授＝周作人  
錢教授＝錢稻孫

在中華民國日本公使館一等書記官若杉要より外務大臣廣田弘毅あて

「第三種補給生ノ北京大学入学ニ関スル件」

(機密第638号、昭和9年10月5日、H0501-0243) JACAR: B05015631400

在華本邦第三種補給生關係雜件 第二卷(H-5-7-0-5\_002)(外務省外交史料館)

文化  
9.10.16  
事業部

人事課長(官)

人事課  
試験係

米取山

文化事業部

機密第六三八號

昭和九年十月五日

在中華民國日本公使館

公使館一等書記官 若杉

外務大臣 廣田弘毅 殿

若杉

第三種補給生ノ北京大学入学ニ關スル件  
滿洲事變以來第三種補給生ニシテ當地支那大學ニ入学セルモノハ武  
田熙カ北京大学文學院ニ聽講生トシテ入学セルニ過キサリシ處本年  
九月ノ新學期ニ於テハ周作人、錢稻孫兩教授ノ盡力ニ依リ無試験ニ  
テ左記五名聽講生トシテ入学ヲ許可セラレタリ右ノ内法學院ニ外國  
人ノ傍聽ヲ許可セルハ今回カ初メテナリトノコトナリ

在中華民國日本公使館

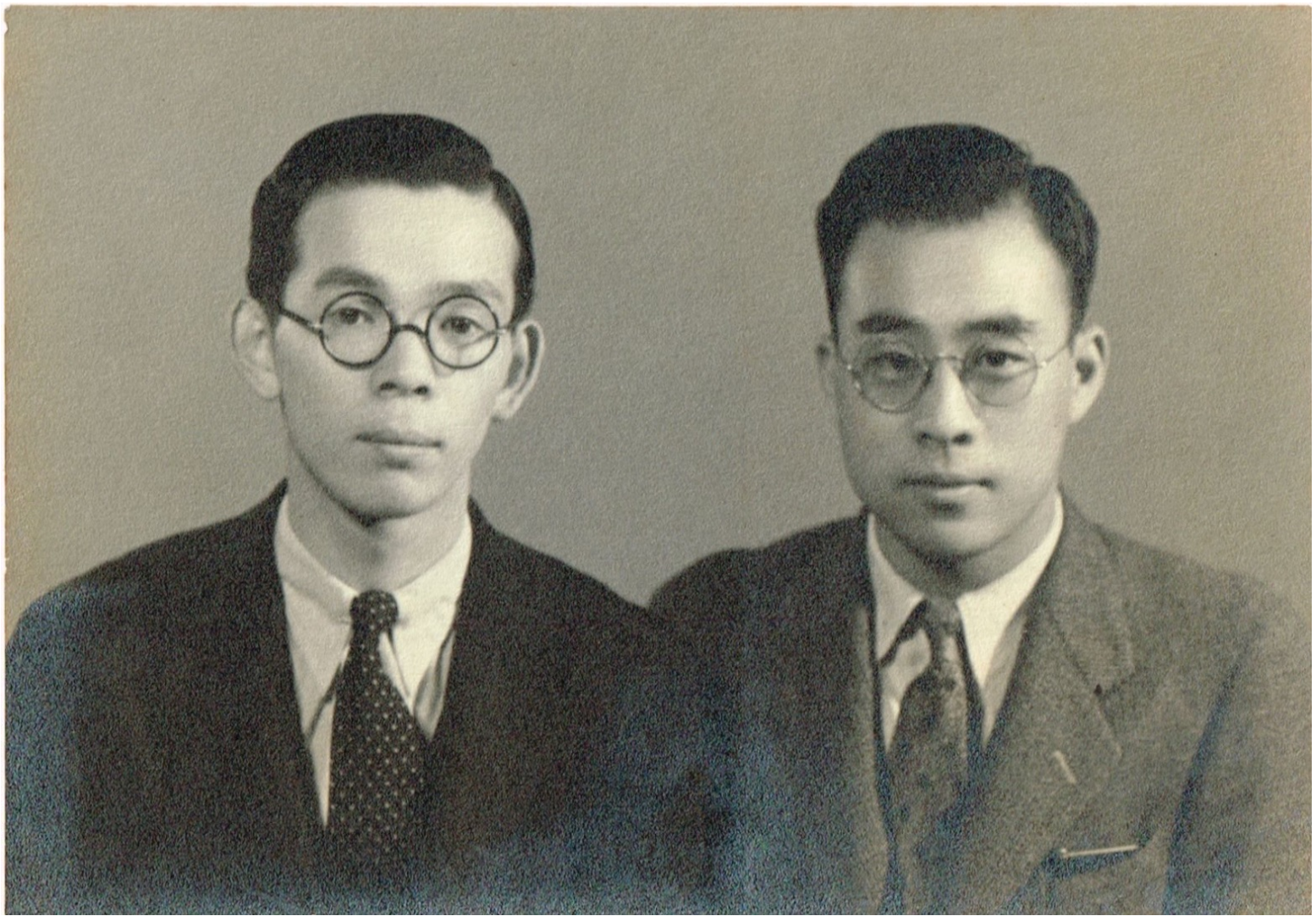
西由五郎 (第三種B)	北京大学法學院	錢教授紹介
櫻山 弘 (第三種B)	北京大学法學院	岡教授紹介
桂 太郎 (第三種A)	文學院	周教授紹介
濱 一衛 (第三種A)	同	同
木村重充 (第三種A)	同	錢教授紹介

右報告申進ス

在中華民國日本公使館



大掛兎を着た濱一衛と中国の友人たち  
左から2番目が濱一衛，後列に周豊一  
(周氏宅で長唄をきかせたときか？ 中島長文氏所蔵)



濱一衛(左)と周豊一(右)

周豊一「憶往二三事」(『颯風』19, 1987)P. 32原載



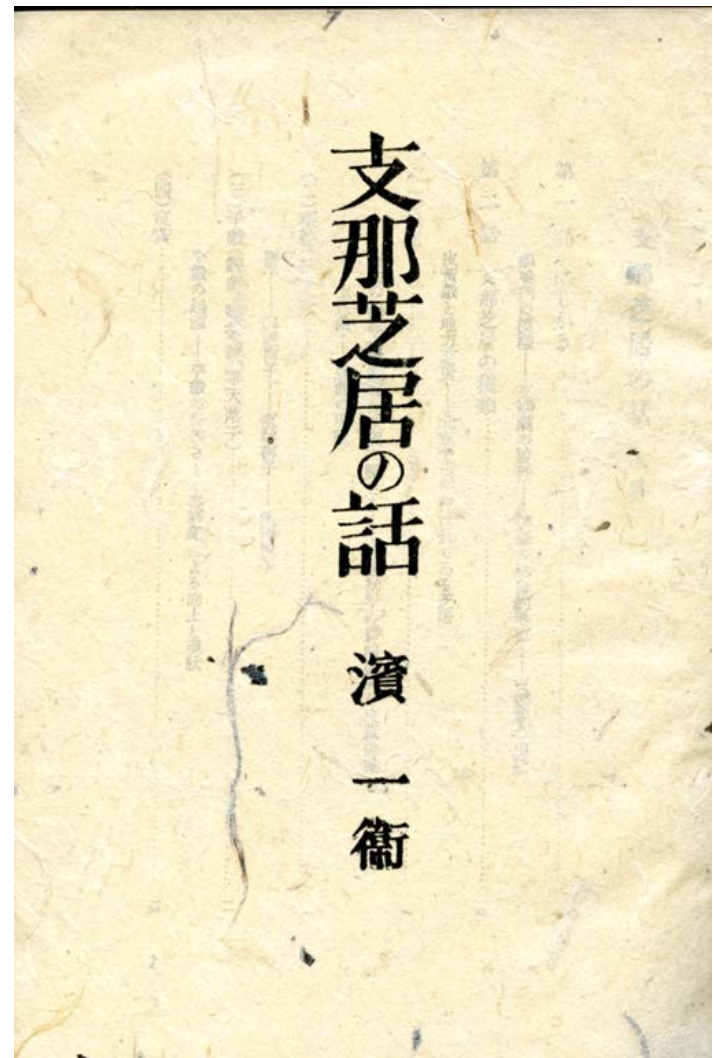
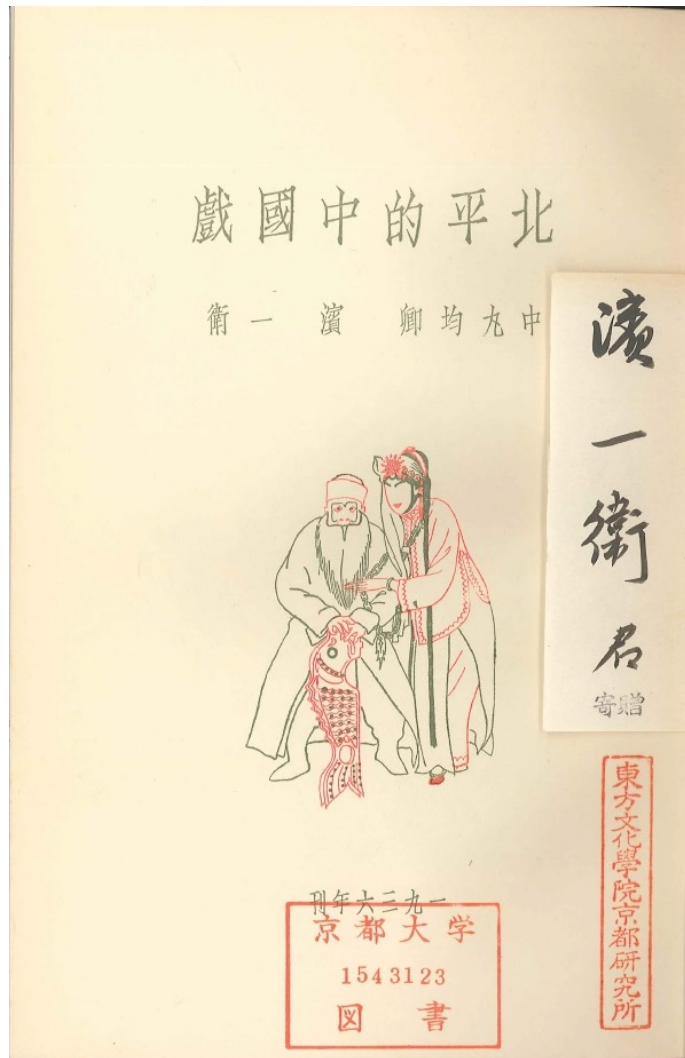
「文質彬彬たる学者諸公のスケーティング姿」  
左から周豊一，目加田誠，濱一衛，小川環樹  
(北海，1934年12月，東谷明子氏所蔵)

# 滨一卫文库所藏戏单

北京	华乐戏院	66	沈阳	共益舞台	1
	吉祥戏院	23	天津	中原公司游艺场	1
	哈尔飞戏院	22	开封	永安舞台	2
	中和戏院	18	上海	天蟾舞台	2
	广和楼	14		金城大戏院	1
	庆乐戏院	8		更新舞台	1
	新新戏院	5		荣记大世界	1
	开明戏院	5		剧世界（上海版）	1
	第一舞台	4	苏州	开明大戏院	1
	长安戏院	2	湖州南浔	张王庙桥民众教育馆	2
	广德戏院	1	不明		3
	三庆戏院	1			
（话剧）	协和礼堂	1			共 186张

(左)『北平的中国戲』東京：秋豐園，1936

(右)『支那芝居の話』東京：弘文堂書房，1944

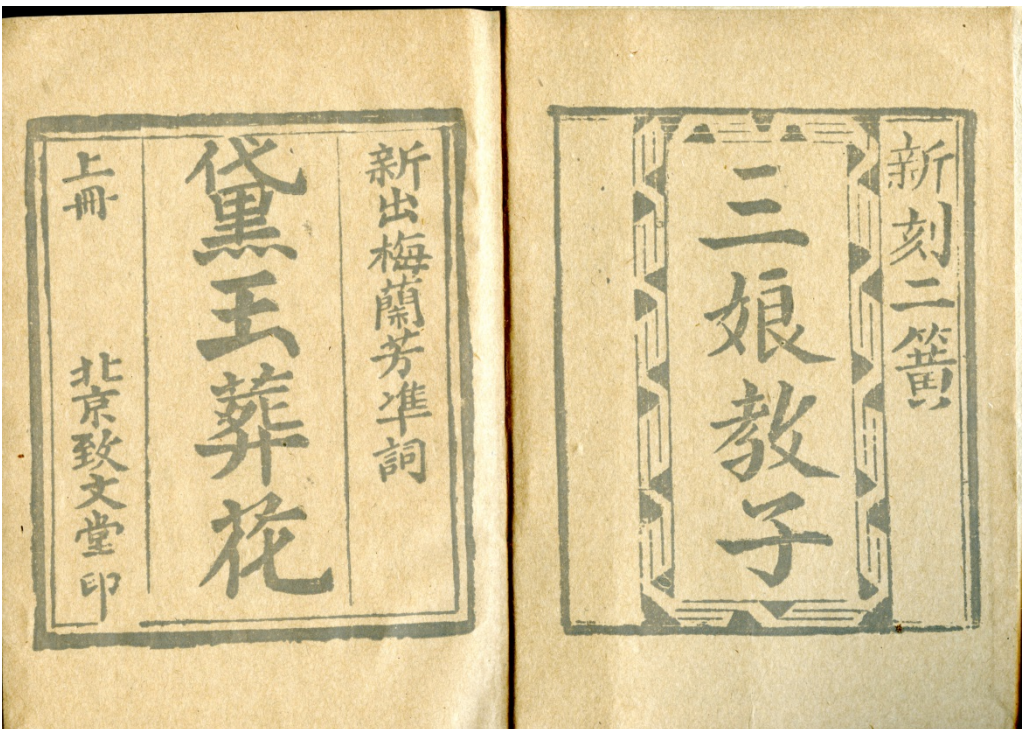
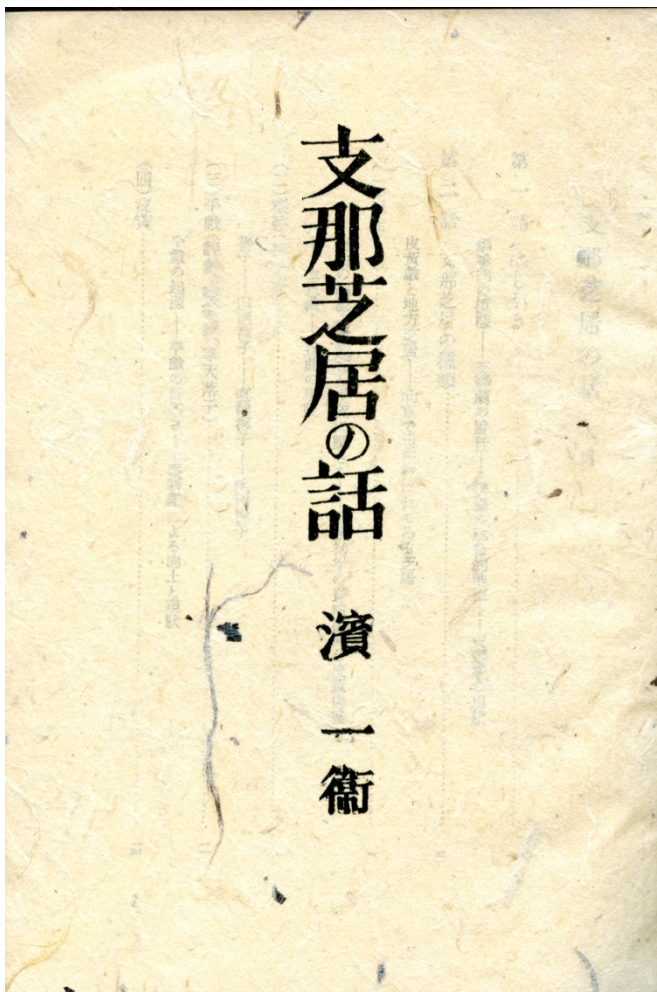




# 『支那芝居の話』

(右上)カバー

(右下)見返し



# 主要論文一覽

- 最近に於ける北崑の変遷 (『支那学』第10卷第3号, 1941)
- 北京に於ける梆子腔について (『支那学』第10卷第4号, 1942)
- 平戲考 (『(松山高商論集』第4号, 1942)
- 東京並びに上海に於ける文明戲について  
(『松山高商論集』第5号, 1943)
- 皮黄の成立 (『松山商科大学創立記念論文集』, 1949)
- 半新半旧劇の変遷 (『文学論輯』第1号, 1952)
- 春柳社の黒奴籲天録について (『日本中国学会報』第5号, 1953)
- 南崑の変遷 (『文学論輯』第4号, 1956)

# 濱先生戏剧观之一端

京劇の近代化、低俗化に対して

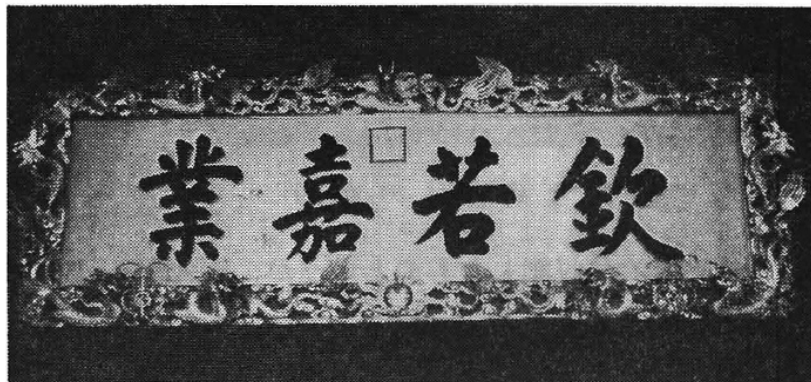
「むしろ之等は民衆と共に在る支那戲の愛敬で昔の歌舞伎をさへ思はせてホヽエマシイではないか。」

濱一衛『北平的中国戲』48～50頁

「この藝術を今以上に低俗化させず、長所を生かして眞に國劇としての價値を保たしむることは、とりわけ俳優達の責任でせう。(中略)その様式化の美しさを壊すやうなことは特に注意すべきでせう。」

濱一衛『支那芝居の話』3～4頁

# 1936年4月～5月 吳興南潯 に劉承幹の嘉業堂を訪問



(上) 溥儀より嘉業堂に贈られた扁額

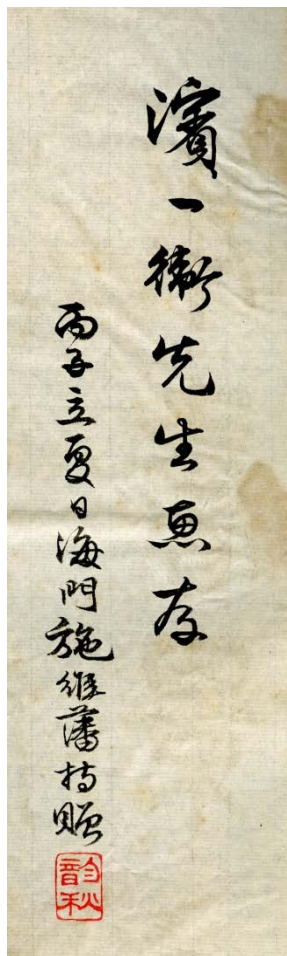
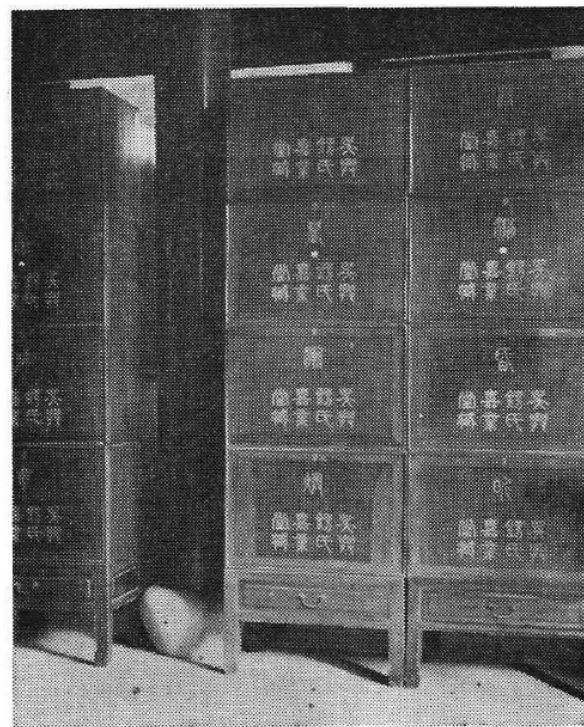
(左) 九州大学附属図書館濱文庫蔵

『嘉業堂善本書影』見返し

「施維藩持贈」の署名

(浜文庫／史13／1)

(右) 嘉業堂蔵書楼の本箱



# 濱一衛「南崑の変遷」

『文学論輯』第4号、九州大学教養部文学研究会、1956

この班名は「文全福」であるが、この頃にはもう全福はなくなっていて、後に説くようにこのメンバーは「仙霓社」の人々であったから、旅に出る時は相変わらず昔なつかしい「全福」の名を便宜上使っていたのであろう。

# 关于青木正儿于1926年所见昆曲戏单 已有如下研究

中塚亮「青木文庫蔵戲单目錄」

(『名古屋大学中国語学文学論集』20, 2008)

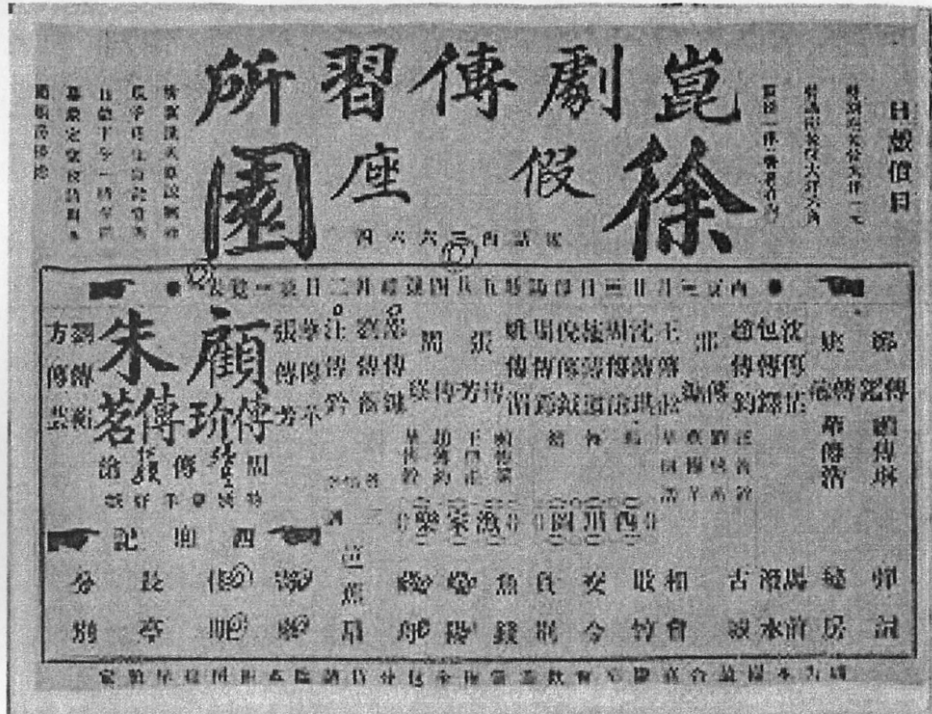
赤松紀彦「七枚の戲单」

(『吉田富夫先生退休記念中国学論集』

東京:汲古書院, 2008)

# 青木正儿于1926年5月4日所见上海徐园戏单

据中塚亮「青木文庫蔵戲单目錄」第19页



22：陽曆五月四号(禮拜二)、丙寅三月二十三日、崑劇傳習所、日戲、徐園(「假座」)(前出18)

《彈詞》鄭傳鑑、顧傳琳

《繡房》姚傳蕪、華傳浩

《馬前發水》沈傳芷、包傳鐸

《古城相會》趙傳鈞、邵傳鏞、王傳淞、汪傳鈴、劉傳蘅、華傳萃、華傳浩

《敗悼》《交令》《負荊》(《西川圖》) 沈傳琪、周傳滄、施傳鎮、倪傳鉞、

周傳錚、鄭傳鑑

《魚錢》《端陽》《藏舟》(《漁家樂》) 姚傳涓、張傳芳、周傳瑛、邵傳鏞、顧傳瀾、王傳淞、趙傳鈞、華傳銓

《孫悟空三調芭蕉扇》 劉傳蘅、汪傳鈴

# 1936年5月6日 吳興 南潯鎮 文全福 戲單

九州大學附屬圖書館濱文庫所藏 ( 浜文庫/集181/52 )

各界望眼欲穿的文全福今夜登臺排演拿手好戲佳座無多諸君請早

▲夜戲價目  
特等 四角  
頭等 三角  
二等 五百文  
三等 二百五十文  
(幼童減半)  
三等 二百五十文

△地點  
浙湖南潯鎮  
張王廟橋  
民衆教育館  
◎電話  
五十八號

南衛 生會 (演) (劇) (籌) (款)

特 煩 姑 蘇 文 全 福 全 體 藝 員 排 演 名 貴 崑 劇

◀ 戲 夜 ( 日 六 十 月 三 閏 歷 夏 節 ) 日 六 月 五 歷 國 ▶

小 丑 姚 湄 傳	大 面 沈 錕 傳	著 名 武 生 汪 鈴 傳	著 名 武 生 施 鎮 傳	唱 做 老 生 施 鎮 傳	旦 花 武 文 芳 傳	且 正 閣 閣 朱 瑛 傳	且 正 閣 閣 朱 瑛 傳	生 小 雅 風 周 芷 傳	正 旦 沈 芷 傳	青 衣 趙 珺 傳	官 生 趙 珺 傳	著 名 二 面 華 浩 傳	文 武 華 浩 傳	花 旦 姚 蕪 傳	著 名 老 生 姚 蕪 傳
小 丑 呂 洪 傳	著 名 老 生 周 銓 傳	著 名 花 面 薛 鋼 傳	架 子 陳 美 傳	著 名 花 旦 陳 美 傳	著 名 白 淨 邵 鏞 傳	著 名 老 旦 馬 菁 傳	著 名 白 面 周 鏗 傳	武 旦 方 芸 傳	刀 馬 花 旦 華 萍 傳	著 名 老 旦 鄭 鑑 傳	著 名 刺 目 劉 蘅 傳	著 名 付 角 顧 瀾 傳	著 名 小 丑 周 滄 傳	著 名 正 旦 王 葉 傳	著 名 老 生 包 鐸 傳
	旦 花 著 名 蒿 傳 沈	丑 小 著 名 湘 傳 章	丑 小 著 名 涪 傳 姚	丑 小 著 名 溱 傳 徐	生 小 著 名 璞 傳 汪	生 小 著 名 璠 傳 袁									

拔 眉 探 監  
刀 會  
三 叉 口

歎 扇 歸 脫 收 訪 吊 說 同 成 劈  
姑 坎 家 亮 扇 脫 收 訪 吊 說 同 成 劈



# 1936年5月6日 夜戏的剧目

■ 『鸞釵記』「拔眉」「探監」

⇒ 1926年5月3日 徐園『鸞釵記』「拔眉」「探監」

■ 『单刀会』「刀会」

■ 「三叉口」

■ 『蝴蝶夢』「歎骷」「扇墳」「歸家」「脫殼」「收扇」「訪師」「吊奠」  
「說親」「回話」「成親」「劈棺」

# 1936年5月7日 吳興 南浔鎮 文全福 戲單

九州大學附屬圖書館濱文庫所藏 ( 浜文庫/集181/51 )

各界望眼欲穿的文全福日夜登臺排演拿手好戲佳座無多諸君請早

▲日戲價目  
特等 四角  
頭等 三角  
(一律小洋)  
二等 二角五分  
(幼童減半)  
三等 一角五分

◀▶ 南 衛 生 會 ▶◀  
(演) (劇) (籌) (款)

▲地點  
浙湖南浔鎮  
張王廟橋  
民衆教育館  
◎電話  
五十八號

特 煩 姑 蘇 文 全 福 全 體 藝 員 排 演 名 貴 崑 劇

◀ 戲 日 ( 日 七 十 月 三 閏 歷 夏 節 ) 日 七 月 五 歷 國 ▶

小 丑 姚 涓 傳	大 面 沈 錕 傳	著 名 武 生 汪 鈴 傳	著 名 老 生 施 鎮 傳	唱 做 旦 花 武 文 芳 傳	旦 正 閣 閣 朱 瑛 傳	生 小 雅 風 周 瑛 傳	正 旦 沈 芷 傳	青 衣 官 生 趙 珺 傳	著 名 二 面 華 浩 傳	文 武 花 旦 姚 蕪 傳	著 名 老 生 包 鐸 傳			
小 丑 呂 洪 傳	著 名 老 生 周 銓 傳	花 面 薛 鋼 傳	架 子 花 旦 陳 美 傳	白 淨 邵 鏞 傳	著 名 老 旦 馬 菁 傳	著 名 白 面 周 錚 傳	武 旦 刀 馬 方 芸 傳	花 旦 華 萍 傳	著 名 老 列 鄭 鑑 傳	刺 旦 劉 蘅 傳	付 角 顧 瀾 傳	小 丑 周 滄 傳	著 名 正 旦 王 葉 傳	著 名 老 生 包 鐸 傳
旦 花 名 著 高 傳 沈	丑 小 名 著 湘 傳 章	丑 小 名 著 涪 傳 姚	丑 小 名 著 漆 傳 徐	生 小 名 著 璞 傳 汪	生 小 名 著 璠 傳 袁									

(記) (遊) (西) (宮) (天) (鬧) (大)  
手 出 打 大 行 武 全

問 琴 樂 家 漁 秦 掃  
病 挑

(.....刺.....相.....藏.....端.....漁.....)  
(.....梁.....梁.....舟.....陽.....錢.....)

崑劇只有今日一天了  
今日日戲，特頭等隨票附送同益泰經理奇異牌香煙買一送一之煙券一張。

# 1936年5月7日 日戏的剧目

■ 『東窗事犯』「掃秦」

■ 『漁家樂』「漁錢」「端陽」「葺舟」「相梁」「刺梁」

⇒ 1926年5月4日 徐園 『漁家樂』「漁錢」「端陽」「葺舟」

■ 『玉簪記』「琴挑」「問病」

⇒ 1926年5月4日 徐園 『玉簪記』「茶叙」「問病」

■ 「大鬧天宮」

# 濱一衛「劉氏の嘉業堂」

『図書館情報:九州大学附属図書館月報』VOL. 5, NO. 7/8, 1969

この嘉業堂に何日ご厄介になったかは記憶にはないが、一日や二日でなかったことは確かである。それはちょうどこの町に巡業に来ていた蘇州の「文全福」という一座の「崑曲」(京劇を歌舞伎とすると能に当る)に二日つづけて案内されたからである。座頭は朱伝茗で、演劇史上に不朽の名をのこした「崑曲伝習所」の出身で、一座の俳優にもみな伝の字がついていた。この系統の南方崑曲(日本来演の韓世昌は北方崑曲)を江南の地できけたことは、たいへんな僥倖だと思っている。